LUXMAN　CL-38u/MQ-88u　音質評価

LUXMAN

CL-38u

定価（税別）￥320,000

MQ-88u

定価（税別）￥380,000

販売価格はお返事します

製品の概要

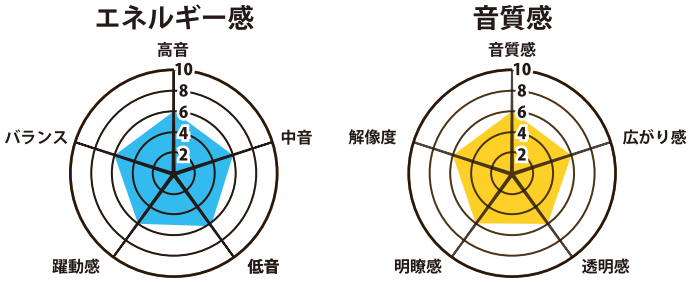
CL-38u

Luxman CL-38u は、クラシカルな木箱ケースに納められたフルファンクションのコントロールアンプです。すべての増幅回路が真空管 (ECC83×3 本、ECC82×5 本) によって構成され、本格的なアナログ・レコード再生を楽しめる高音質のオール真空管フォノステージには、左右 /2 段階ゲイン毎独立の MC トランス 4 基が搭載されるなど価格を大きく超える本格的なプリアンプです。機能も豊富でレコード再生時に使うローカット・スイッチ（サブソニックフィルター）や、モノラル・スイッチ、細かな音質調節が可能なターンオーバー周波数 3 段階切替 (Bass:150/300/600Hz、Treble:1.5k/3k/6kHz) の LUX 方式トーンコントロール機能などが搭載されています。入力は LINE× 4 , PHONE× 1 (MM/MC)、TAPE× 1 です。出力は、PRE-OUT× 2 , TAPE-OUT× 1 です。発熱は少なく、無信号時の消費電力は 35W とトランジスターアンプとほとんど変わりません。ワイヤレスリモコンと OFC 極太線ノンツイスト構造の電源ケーブル JPA-10000 が付属します。

MQ-88u

真空管式ステレオパワーアンプの MQ-88u は、現在でも愛用者の多い 1969 年発売の MQ60 をデザインモチーフに置き、3 極管接続プッシュプル構成のスロパキア JJ 社製 KT88 と、オリジナル形状を復刻したアルミ・ダイキャストケース入り OY 型出力トランスを搭載した、25W＋25W(6Ω) のステレオパワーアンプです。入力は ECC83（12AX7）×2 本、ドライバー段に ECC82（12AU7）×2 本、出力管に KT88×4 本が使われています。回路には実績のあるムラード型回路 (ドライバー段) と 3 極管接続を採用され、名器の誉れ高い OY15 型出力トランスをオリジナル形状で復刻しアルミ・ダイキャストケースに収納しています。電源トランスには大容量電源 EI 型トランスが使われ、大型オリジナル・ブロックコンデンサーが装備されます。入力端子は音量調節が可能なバリアブル入力とボリュームをバイパスするダイレクト入力の 2 系統が備わり、極太スピーカーケーブルの接続が可能な大型スピーカー端子が使われます。プリアンプとおそろいの OFC 極太線ノンツイスト構造のラックスマン純正電源ケーブル JPA-10000 が付属します。

＜明＞---◆-----＜暗＞　　＜柔＞---◆-----＜硬＞



形式	真空管式プリアンプ
入力数	LINE × 4 PHONE × 1（MM/MC）
出力数	PRE OUT × 2 TAPE OUT × 1
使用真空管	ECC83×2、ECC82×2
周波数特性	20Hz−20KHz（+0/−0.1db）10Hz−70KHz(+0/−3.0db)
消費電力(無信号時)	35W（逸品館にて計測）
サイズ/重量	400×280×170(mm)/13.5kg
付属品	電源ケーブル、リモコン

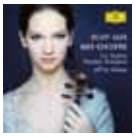
形式	真空管式パワーアンプ
入力数	LINE　固定×1、可変×1
使用真空管	ECC83 × 2、ECC82 × 2 KT−88 × 4
最大出力（Ω）	25W（6Ω）、20W（4/8Ω）
周波数特性	20Hz−20KHz（+0/−0.1db） 10Hz−65KHz（+0/−3.0db）
消費電力(無信号時)	135W（逸品館にて計測）
サイズ/重量	440×185×185(mm)/15.8kg
付属品	電源ケーブル

総評

MQ-88u と Unison Research Sinfonia を比較しました。Sinfonia は真空管らしい暖かく艶の良い音を出したのですが、MQ-88u はそれと比べると音が硬く、広がりも艶も少なく感じられました。真空管アンプらしい音をお求めのお客様は、迷わず Sinfonia をお選びになりました。試聴はその経験を踏まえ、最初から CL-38u と組み合わせて聞くことにしました。結果は大成功でかなりのレベルの音質で音楽を楽しく聴けました。CL-38u/MQ-88u で感心するのは高域の濁りのなさと切れ味の鋭さ、高域がふわふわせずしっかりした芯が感じられることです。高域がハッキリしていますから、低音も引き締まりぐんぐん前に出ます。そのかわりに真空管らしい「甘さ」と「響きの良さ」は少なめです。CL-38u/MQ-88u が聴かせてくれる音は Luxman の純 A 級トランジスターアンプにとてもよく似ています。真空管と言われればそうかな？と思いますし、純 A 級トランジスターアンプだと言われれば、そうだと思います。その音質は luxman 最大のヒット作「L-570」にとてもよく似ています。しかし真空管らしい音色の濃さではスペシャリスト達がそのノウハウを凝縮して作り上げた EAR V12 や MANLAY Stingray との差は確実にあり、あえて Maid in Japan、Maid By Luxman にこだわるのでなければ、それらの老舗メーカーの製品を選んだ方が「真空管らしい音」に納得頂けると思います。しかし、真空管アンプを作るノウハウがほとんど途切れた Luxman がこれほどのアンプを作れたのは、大成功だと思いますし、他メーカーの作る真空管アンプの音を模さず、Luxman らしい新しい音色を作り出したことは賞賛に値すると思います。どこに出しても決して恥ずかしくない水準以上の音質に仕上げられています。

音質テスト結果　PMC　PB1i/Signature と組み合わせて

ボーカルは滑らかですが、わずかに粉っぽくトランジスターアンプのようにも聞こえます。シンバルは明確な芯があり金属的な感じが上手く出ていますが、真空管らしい音色の鮮やかさがあまり感じられません、ベースラインは太く力強く、ぐんぐんと前に出ます。全体的には癖が少ないさっぱりとした音調に仕上げられていて、良くできた MM カートリッジでレコードを聴いているような感覚でオレンジペコが鳴りました。



さわやかでしっかりした音ですが、EAR や MANLAY で感じた「真空管らしい音色の鮮やかさ」があまり感じられません。そのためバイオリンはやや単調な音になり、バックのチェロやコントラバスとの音色の違いがほとんど感じられません。癖が少なく細やかで立派な音なのですが、真空管らしい「プラスアルファ」がほとんど感じられません。歪みがなくトランジスターアンプと比較できる「特性の良い音」を狙ったのだとすれば、それは大成功ですが、真空管ならではの音を作ろうと考えていたのであれば、その狙いは成功していません。決して嫌な音ではなく聞き疲れもしませんが、味のある真空管アンプでこのソフトを聞き込んでしまった後では、積極的に聞き続けていたいとも思えない音でした。

切れ味が素晴らしく、透明感も高く、低音の量感と押し出しも素晴らしいものがあります。ボーカルもきめ細やかで解像度感、明瞭度感は従来の真空管のイメージを覆すのに十分です。しかし、このソフトでもガガのカメレオンのように変化する声の調子が再現されず、だらだらと歌っているように感じられます。どっちつかずのイメージが残りました。

音質テスト結果　Focal 1028Be と組み合わせて

スピーカーを変えても CL-38u/MQ-88u の「ドライ」な音調は変わりません。特性は素晴らしく解像度も高く、寝ぼけたような真空管アンプの音しか知らない人が聞けば、びっくりするくらい鮮度の高い音で 1028Be が鳴ります。しかし、それでもこの音は私が真空管アンプに求めるものではありませんし、歴代の Luxman 真空管アンプの音色とも違っています。スピーカーを PB1i/Signature から 1028Be に変えると、その傾向がより一層強く感じられました。

ヒラリー・ハーンに関しては、PB1i/Signature よりも 1028Be との組み合わせが良かったように思いますが、スピーカーを変えてもこのソフトを CL-38u/MQ-88u で鳴らす印象は変わりません。評論家的に CL-38u/MQ-88u を論評するなら「真空管アンプとは信じられないほど繊細で鮮やかな高域と、トランジスターアンプ並の低域駆動力を兼ね備え、従来の真空管アンプの常識を覆すほどの素晴らしい音」という表現が当てはまるでしょう。しかし、真空管アンプに求めたい「音色の変化」が乏しく、演奏が一本調子に聞こえます。

真空管らしくないハイスピード感と、ユニットの存在を感じさせない抜けの良い音に驚かされます。ガガのボーカルの表情も PB1i/Signature よりも大きく変化し、かなり楽しめる音質に変化します。ベースラインは力強く、ぐんぐん前に出ます。高域は鮮度が高く細やかです。この音なら十分に及第点だと思いますが、やはり音色が単調なため音が重なる部分ではややうるさく感じられました。